

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発事業

報 告 書

プログラム名	道徳教育の学びの場をつなぐ相互補完研修プログラムの開発 ～「かがわ道徳ラボ」を核として～
プログラムの特徴	<p>道徳教育の充実に資する高度な資質能力の育成をねらうプログラムである。特徴としては、教職大学院、教育委員会・県教育センター、学校現場等で実施される道徳教育に関する学びの場に互いの研修対象者を参加可能にすることで、理論と実践に関する内容の相互補完を図る。</p> <p>その際に、指導助言者として関わっている教職大学院の教員が各研修担当者と連携して、学びの場をつなげるコーディネーター役を果たし、各々のよさや学びの機会を共有できる場—かがわ道徳教育ラボ—として研修の機会を提供する。ラボには、コラボレーション (collaboration) やラボラトリー (laboratory) の意味を込めて、覚えやすく呼びやすい愛称として「かがわ道徳ラボ」とした。特に、教職大学院、県教育委員会、県教育センター、その他道徳教育に関わる複数の機関や立場の違う人によって行われる連携・協働となる道徳教育研修の場を創設しようとした。また、その連携や協働によって得られた成果も道徳ラボの一部である。つまり、研修体制だけでなく、互いの研修内容も連携・協働してよりよく改善しようと努めてきた。</p> <p>さらに、本研修プログラムに参加できなくても、校内研修や個人研修等で活用できる「道徳教育研修DVD教材」にまとめて、各学校等へ提供する。また、教科化に伴う不安や悩み等に答えるために、電話やメール、FAX、来訪等による対応を行う「道徳教育何でも相談ネット」を実施することとし、啓発普及していく。</p>

平成29年 3月

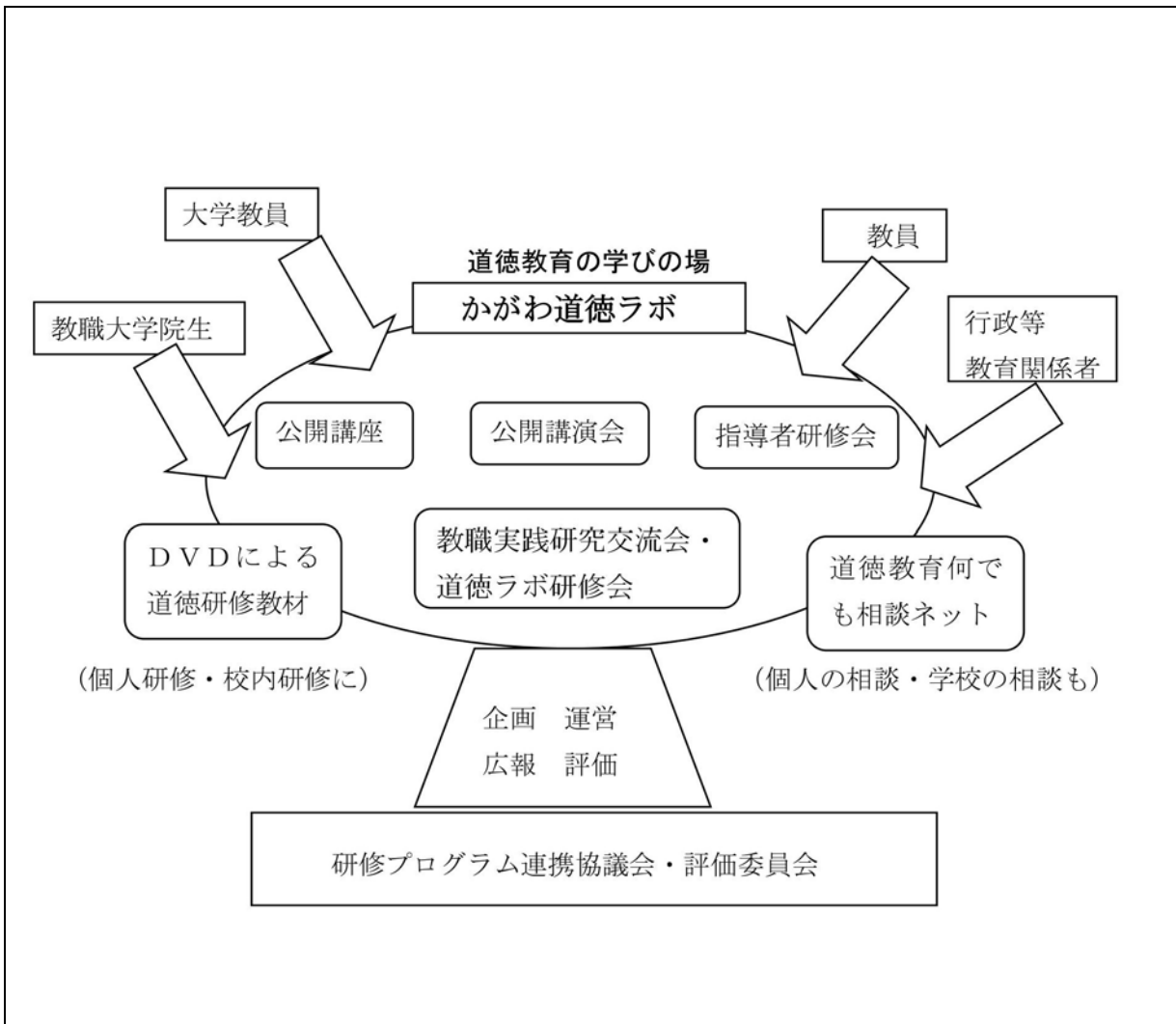
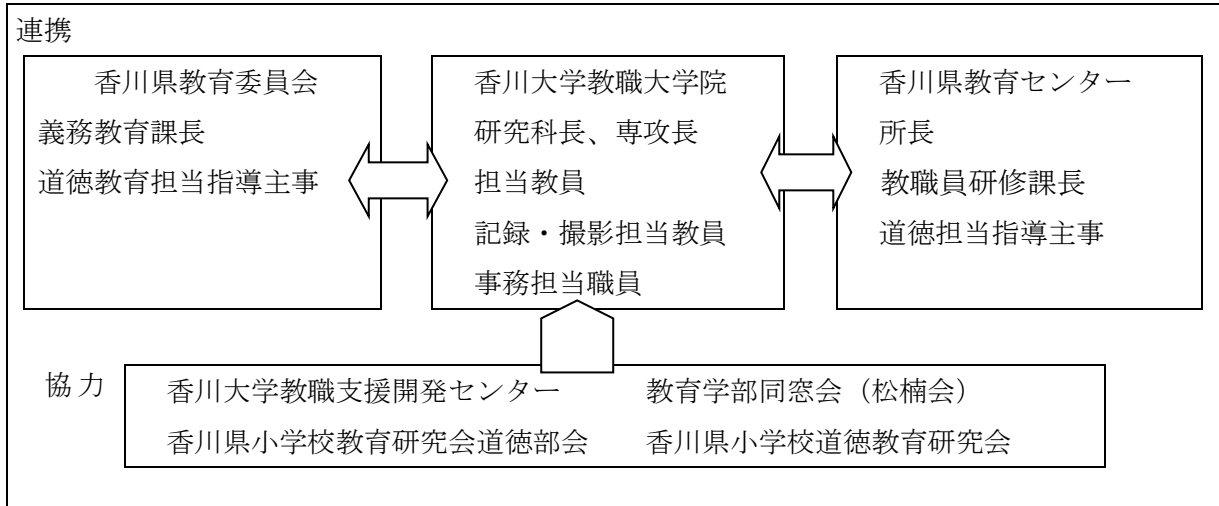
機関名；国立大学法人香川大学

大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）

連携先；香川県教育委員会

香川県教育センター

プログラムの全体概要



I 開発の目的・方法・組織

1. 開発目的

これまで、香川県教育委員会・県教育センターにおいては、道徳教育地域支援委託事業での指定校における実践研究、道徳教育指導力向上研修等を実施してきた。また、香川大学では、平成28年4月に開設する教職大学院で、道徳教育を柱とする特色あるカリキュラムを編成した。

しかし、各々の事業や研修は独自に実施・運営されてきたので、個別の研修対象者のみの学びの場であり、互いの内容やよさを十分に共有するには至っていない。そこで、道徳教育に関する学び続ける場の形成に資する「道徳教育の学びの場をつなぐ相互補完研修プログラム」を開発する。つまり、教職大学院（研究・養成）と、県教育委員会（行政）・県教育センター（研修）及び学校現場（実践研究）とが理論と実践面において相互補完を図り、より高度な資質能力を身に付けた教員を育成することを第一の目的とする。さらに、研修プログラムを通じた最終的な成果物としての道徳教育教員研修DVD教材を作成するとともにそれを活用し、県下全体の教員の道徳教育指導力向上を図ることを第二の目的とする。

2. 開発の方法

教職大学院の道徳教育担当に関わる4名の教員と県教育委員会や県教育センターの道徳教育担当指導主事が、互いの研修や講義等の現状と課題を情報交換したり、研修の内容と方法を繰り返し打ち合わせしたりすることが何より重要であった。その過程で、研修場所を大学だけでなく、県教育センターを利用することや具体的に実施する際の準備や役割分担等についても決めていくことができた。さらに、「かがわ道徳ラボ」としての研修会の一部を、大学の教職支援開発センターや教育学部の同窓会組織と共催で参加を呼びかけることで、より多くの方に学びの機会を提供してきた。

具体的には、道徳教育の充実に資する高度な資質能力の育成を図るために、以下の3点に取り組んだ。

① 道徳教育に関する指導力の高度化を図る研修プログラムの実施

・かがわ道徳ラボ公開講座：教職大学院の道徳教育に関する授業科目を公開して、学校の教員や教育関係者が受講できるようにした。（学校現場が夏休み期間中7月末、8月初旬）

・土曜日の午後を活用した研修会や外部講師を招聘した講演会等：教職実践研究交流会・第1回公開講演会を8月に実施。道徳ラボ研修会・第2回公開講演会を12月に実施。

② 香川県全体の教員の指導力向上を図る道徳教育研修DVD教材の作成

研修プログラムのポイントをまとめた校内研修や個人研修等で活用できるDVD研修教材を作成して、各学校へ配布することとした。ともに、各研修の講座や講演会、シンポジウム等の記録DVDを貸出用教材として、研修可能であることも広報した。

③ 相談や質問への対応と支援～道徳教育何でも相談ネット～

県内外から、今年度4月以降に道徳教育の教科化や学校での道徳の授業づくり等に関する相談や質問等が約60件程あった。方法として、電話、大学への直接訪問、電子メールでのやりとり、公開講座の個別質問時間の活用、道徳に関する研修会の休憩や終了後、等多様である。内容とし

ては、評価に関わること、今後の教科書や教材について、全体計画・年間計画の修正等の手順やポイント、道徳教育に関する図書の紹介や問合せ、道徳科の趣旨を踏まえた授業づくり、校内研修の工夫や教員への共通理解について、等が主なものである。道徳ラボに参加できた方は、研修会で得た資料を活用して校内研修の場を設定するなど、何をすべきかの方向性や不安軽減に役立てたようであるが、なかには道徳教育推進教師であるが、都合が付かず参加できなかったために問合せや資料がほしいと連絡をいただいた。そのような方にもDVD研修教材を生かせると考えて、今年度中に配布する。

3. 開発組織

組織としては、香川大学教職大学院が核となり、香川県教育委員会・香川県教育センターと連携を図りながら実施してきた。さらに、香川大学教職支援開発センター、教育学部同窓会（松栴会）、香川県小学校教育研究会道徳部会、香川県小学校道徳教育研究会の協力も得て実施できた。

(1) 組織委員

No	所属・職名	氏名	担当・役割	備考
1	香川大学教職大学院 教授（研究科長）	毛利 猛	総括	
2	教授（専攻長）	有馬 道久	プログラム開発チーフ、評価	
3	教授	七條 正典	プログラム企画・立案・実施	
4	准教授	植田 和也	プログラム企画・立案・実施	
5	准教授	齋藤 嘉則	プログラム企画・立案・実施	
6	准教授	山本木ノ実	関係機関との連絡・調整	
7	准教授	松下 幸司	記録、研修DVD教材撮影・編集	
8	特命准教授	松井 保	プログラムの実施	
9	課長補佐（総務係長）	野口 里美	関係機関との連絡	
10	学務係専門職員	平岡 桂子	会計、物品購入	
	香川県教育委員会		事業全体の企画・評価	
11	義務教育課長	矢木澤 崇	プログラム企画・立案・実施	
12	主任指導主事	藪内 康則		
	香川県教育センター		事業全体の企画・評価	
13	所長	藤井 浩史	事業全体の企画・評価	
14	教職員研修課長	上村 毅	連携協議・評価	
15	主任指導主事	伊賀 由美子	プログラム企画・立案・実施	
16	主任指導主事	小倉 勇介	プログラム企画・立案・実施	

3月、4月においては県教委や県教育センター等を訪問し、事前の協議や打ち合わせを実施し、全体の計画と内容の調整を図ってきた。その後、下記のように研修プログラム連携協議会や打ち合わせを組織委員としての香川大学教職大学院、香川県教育委員会、香川県教育センタ

一の担当者を中心に実施してきた。

(2) 協議会や打ち合わせ等

【第1回】平成28年5月17日(火)

本協議会の組織体制及び本プログラムの年間予定を確認し、7・8月に開催する「かがわ道徳ラボ」及び8月開催予定の「教職実践研究交流会」の実施内容について審議した。また、6月に県教育センターで行う「道徳教育指導力向上研修」の内容と演習の在り方について、4月のつくばでの研修を参考に協議した。

【第2回】平成28年7月7日(火)

「かがわ道徳ラボ」「教職実践研究交流会」の案内状配付状況の確認と、実施内容に関する役割分担等打合せを実施した。また、DVD教材作成及び相談ネットの作成要領について確認した。ワークショップの担当を大学教員と県教育センター指導主事が協働で行うために、事前に何度も各ワークショップごとの打ち合わせや手順の確認等を行った。まさに、学校現場の最新の実態や声を指導主事から聞きながら、何を中心にすべきか、どのような資料を提示するかを検討していった。

【第3回】平成28年8月6日(土)

「かがわ道徳ラボ」「教職実践研究交流会」にかかる研修プログラムの進捗状況について確認した。また、12月の研修会の開催場所や内容等について意見交換を行った。

【第4回】平成28年11月9日(水)

12月開催予定「道徳ラボ研修会・第2回公開講演会」の実施内容について協議。

【第5回、評価委員会】平成29年1月11日(水)

研修プログラムの評価及び次年度計画について検討。(議事録の一部を資料に掲載)

II 開発の実際とその成果

1. かがわ道徳ラボ公開講座

○研修の背景やねらい

香川大学教職大学院では、道徳教育を柱とする特色あるカリキュラムを編成し、道徳教育に関する授業科目を3科目設定している。その授業内容の2回分を公開講座として実施し、教科化に係る最新の情報や道徳教育、道徳の授業づくりについて、学校の教員に無料で教職大学院生とともに学ぶ機会を提供した。

公開講座Ⅰでは、道徳の教科化のポイントについて理解することがねらいである。

公開講座Ⅱでは、教科化に伴う指導方法の改善や工夫、重点化を生かした学校づくりを理解することがねらいである。そのために、具体的な読み物教材を活用して、小学校と中学校に分かれて、グループで指導過程を協議し、多様な指導方法を学ぶことを位置づけた。

○事業内容、日時、会場、人数、対象、講師

事業内容	日時	開催場所	参加人数	対象	講師
かがわ道徳ラボ 公開講座Ⅰ	平成28年7月25日(月) 13:00~15:00	香川大学 教育学部431	20名	学校、教育関係者	教職大学院(七條、植田、齋藤、松井、山本)
かがわ道徳ラボ 公開講座Ⅱ	平成28年8月4日(木) 13:00~16:00	香川大学 教育学部431	22名	学校、教育関係者	教職大学院(松井、植田、齋藤、山本)

○各研修項目の配置の考え方

学校現場では、様々な課題への対応や多忙な日々において、中教審答申や学習指導要領解説等を読み込む時間や余裕をとりづらいとみられる。そこで、教科化に関する基本的なポイントを講義形式で、授業改善の具体的な視点や学校づくりに生かせるヒント等を演習と講義で分かりやすく実施しようと考えた。その際に、学習指導要領の基本的な理解や授業づくりにおけるポイントとして発問を個人やグループで検討する時間を設けた。

配置順序としても、まず、公開講座Ⅰとして、基本的な趣旨や経緯、道徳科のポイント等を理解することを位置づけた。その後公開講座Ⅱとして、具体的な授業について考えることを演習で位置づけた。

○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方

事業内容 実施形態 時間数	各研修項目の内容	使用教材、進め方
かがわ道徳ラ ボ公開講座Ⅰ 講義 2h	<ul style="list-style-type: none"> ・教科化の趣旨・経緯 ・道徳科のポイントと大切にしたいこと 	<p>使用教材：配布資料、テキストはパワーポイント資料（中央教育審議会答申や学習指導要領等） 中央教育審議会答申、一部改正学習指導要領、学習指導要領解説「特別の教科 道徳」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進め方の留意事項進め方においては、担当者の自己紹介や参加者の勤務校での課題や学びたいことを一言ずつ紹介する等、質問しやすい雰囲気づくりに配慮した。その後、「教科化までの経緯について」と「道徳科のポイントと大切にしたいこと」を講義形式で実施した。 <p>その後、質疑の時間や各学校の個別相談に応じる時間を設けた。</p>
かがわ道徳ラ ボ公開講座Ⅱ 講義・演習 3h	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：学習指導の工夫について ・演習：資料分析から発問を考えよう ・演習：発問、交流活動について ・講義：道徳科の趣旨を踏まえた重点化と特色ある学校づくり 	<p>使用教材：一部改正学習指導要領、小学校学習指導要領解説、中学校学習指導要領解説「特別の教科道徳」、 「私たちの道徳」小：「うばわれた自由」 中：「帰郷」、演習用ワークシート</p> <p>講座のテーマを「道徳科の趣旨を踏まえた授業改善」をして、演習を取り入れながら実施した。講義では、学習指導要領で「学習指導の工夫や指導の配慮事項」についての記載を確認することを中心とした。</p> <p>それを踏まえた演習では、小・中学校のグループに分かれて、「私たちの道徳」に掲載の資料を活用して「資料分析から発問を考えよう」を位置づけた。その後、担当教員から「発問、交流活動について」ポイントを解説し、質疑の時間をとった。</p> <p>後半の講義では、「道徳科の趣旨を踏まえた学校づくり」について、道徳科の趣旨を踏まえた特色ある学校づくり、構想例の紹介、学校全体で取り組む道徳教育、道徳教育を核とした学校づくりのポイント（学校評価）について実施した。</p>

○実施上の留意事項

若年の先生や道徳担当ではない先生方も一部参加していただきだったので、教科化に係る基礎的な事項や用語等の確認にも配慮した。現在、一部改正学習指導要領、道徳科の解説等が文部科学省のホームページ上からダウンロードしなければいけないので、必要な箇所を印刷して配布した。

○研修の評価方法、評価結果

評価方法として、参加者に内容や開催日時、自由記述で回答を求めた。
公開講座Ⅰ、Ⅱとも下記の通り、大変高い満足度を得られた。

① 「かがわ道徳ラボ公開講座Ⅰ 2016.7.25（月）開催」のアンケート集計結果は下記の通りである。参加者20名のうち、18名から回答を得た。

	内容について	開催日時について
満足	14名	14名
どちらかという満足	4名	4名
どちらかという不満・	0名	0名
不満	0名	0名

内容についての主な回答理由

- ・今後の道徳教育のめざすべきところが理解できた。
- ・これからは考え、議論する道徳が必要だと感じた。
- ・道徳教育の改訂について詳しく知ることができた。
- ・教科化に向けてどう指導すべきか、どのような教材を使うべきかなど分かりやすかった。
- ・授業で学んだことを再確認することができた。

開催日時についての主な回答理由

- ・大学院生には授業の総まとめとして最適である。
- ・夏休み期間中なので参加しやすい。
- ・総合体育大会と重ならない日程であれば最適である。
- ・もっと時間をとってほしい。

☆ 今後、道徳教育に関する内容で実施してほしいことは何か（自由記述）。

- ・授業実践（構成、指導技術、方法、手法など）について
- ・1つの教材を使う場合のアプローチ方法、授業の進め方について
- ・具体的な授業例を示してほしい。
- ・道徳教育推進教員としての校内研修の持ち方について

☆ 自由意見等

- ・教科化された場合には特定の教科書を使用しなければならず、他の資料を用いる機会が少なくなるのではないかと。
- ・要点が分かりやすくまとめられていて参考になった。アドバイスをいただいた。
- ・道徳について学ぶ機会が少ないので、今回の公開講座は参考になる。
- ・学校管理職への啓発が必要であるので、管理職向けの研修・講習会などを開催してほしい。

② 「かがわ道徳ラボ公開講座2016.8.4（木）開催」のアンケート集計結果は下記の通りである。参加者22名のうち、20名から回答を得た。

	内容について	開催日時について
満足	14名	14名
どちらかという満足	6名	6名
どちらかという不満・	0名	0名
不満	0名	0名

内容についての主な回答理由

- ・最新の情報を得ることができた。
- ・授業や指導要領を見直して校内研修に生かしたい。
- ・講義後の演習形式によるグループ討論で理解が深まった。
- ・時間が限られているので残念、もう少し詳しく聞きたかった。

開催日時についての主な回答理由

- ・夏休み期間中なので参加しやすい。
- ・夏休み期間中に受講し、2学期からの授業に生かせるので丁度良い。
- ・総合体育大会と重ならない日程であれば最適である。

☆ 今後、道徳教育に関する内容で実施してほしいことは何か。（自由記述）

- ・30年度の教科化に向けて学校として何から取り組むべきかの具体例
- ・指導案や学校計画についての個別指導
- ・授業の構成、ヒントについて
- ・地元を題材にした教材教本を使った授業の実践例について
- ・道徳性が低いと見受けられる生徒への指導方法について
- ・学生と現職教員の交流会の実施

☆ 自由意見等

- ・道徳教育に関する国の指針、動向などについて知識を得られた。
- ・中心発問に関する演習が参考になった。
- ・現職教員、院生、学部生という様々な立場の参加者との意見交換をする機会を得られ、とても勉強になり、充実した時間を持てた。
- ・このような機会について、もう少し時間をとってほしいと思った。

○研修実施上の課題

夏季休業中とはいえ、様々な研修が行われており、資料だけほしいという事前の声もあった。教育委員会から研修日程等の情報を得ながら、開催日の決定を思案した。基本的に教職大学院の授業が平日であるために、学校現場の先生方が他の研修と重ならないのか、道徳関係の先生方の研修が設定されていないのか、と検討を重ねながら実施してきたが、開催日は大きな課題である。

2. 教職実践研究交流会・道徳ラボ研修会・公開講演会

○研修の背景やねらい

公開講座は、夏季休業中ではあるが平日のため、別の研修や校内行事等で参加できない教員も多くいると考えられた。また、県教育センターの指導主事も研修の担当等で、参加が難しいことも予想された。そこで、土曜日の午後を活用して、学校の夏季休業中と冬季休業中にそれぞれ、教職実践研究交流会・第1回公開講演会（8月6日土曜日）、道徳ラボ研修会・第2回公開講演会（12月10日土曜日）を実施することとした。教職実践研究交流会では、県教育センター指導主事と大学の教員が協働して、各ワークショップを実施した。道徳ラボ研修会では、会場を県教育セ

ンターとして、県教育センター指導主事と大学教員がともにシンポジウムのコーディネータを実施した。

教職実践研究交流会・第1回公開講演会では、道徳教育推進教師等の道徳を専門として担当している教員だけでなく、多くの教員に教科化に関する情報に興味・関心をもち前向きに参加してほしいと考えた。そこで、幅広い視点から道徳教育を検討し、その後、道徳教科化に係る講演を位置づけた。つまり、若年者や校内で道徳を担当していない教員も含めて、多くの教員が参加しやすいことを教職実践研究交流会のねらいとした。さらに、その過程において、道徳を担当している教員とそうでない教員の交流、研究者や行政担当者と教員の交流、教員OBや大学院生と現職教員の交流等、様々な形で道徳教育を話題に交流が広がることをもう一つのねらいとした。

道徳ラボ研修会・第2回公開講演会では、教科化に向けての学校現場からの課題を受けて校長の立場や県内中学校の道徳教育の研究部の立場の教員から提案を受けて、それに応えるという形でシンポジウムを実施した。その際に、参加者が平成29年度、30年度に具体的に何をすべきか、どのように校内研修等を考えていくべきなのかをイメージができるような内容にすることをねらいとして大切に考えた。そして、最後に元教科調査官の昭和女子大学押谷教授に講演をまとめ的な内容となる講演を依頼した。

○事業内容、日時、会場、人数、対象、講師

事業内容	日時	開催場所 (会場)	参加 人数	対象	講師
教職実践研究交流会・ 第1回公開講演会	平成28年8月6日 (土) 13:00～17:00	香川大学 教育学部 オリーブホール他	119名	学校、 教育 機 関 関 係 者	大学担当教員、 県教育センター指導主事、 田邊重任(元高知大学)
道徳ラボ研修会・第 2回公開講演会	平成28年12月10 日(土) 13:00～17:00	香川県教育セ ンター 大会議室	120名	学校、 教 育 機 関 関 係 者	シンポジスト:堀田竜次(独立行政 法人教員研修センター東京事務所 主任指導主事)、 柴原弘志(京都産業大学教授) 毛内嘉威(秋田公立美術大学教授) 講演:押谷由夫(昭和女子大学教授)

○各研修項目の配置の考え方

教職実践研究交流会・第1回公開講演会では、道徳を専門として担当していない教員にも道徳の教科化に関する情報に興味・関心をもち前向きに参加してほしいと考えて、本学教職大学院の特色や道徳教育を幅広く考えた3つの視点からワークショップを用意した。そして、道徳教育がどの視点からも豊かな学校づくりにつながることを認識してほしいと願い、「豊かな心を育む学校づくり」の講演を位置づけた。

道徳ラボ研修会・第2回公開講演会では、参加者がこれから具体的に何をすべきかを各立場か

らイメージができるような内容にすることを踏まえて、提案、シンポジウム、講演を位置づけた。特に、まず「学校現場からの取り組みの紹介や課題について」の提案を受けて、シンポジウムでは、「学校現場からの提言及び実施上の課題に応える」という内容として配置した。参加者からの学校現場の課題を確認して、シンポジウムに参加できることでより一層の認識が深まると考えたからである。最後に元教科調査官の昭和女子大学押谷教授に、「地域に根差し世界に飛び立つ子どもたちを育てよう — 「特別の教科 道徳」を要として—」という内容のこれまでの研修プログラムのまとめとしての講演を依頼して位置づけた。

○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方

事業内容 実施形態 時間数	各研修項目の内容	使用教材、進め方
教職実践研究交流会・第1回公開講演会 ワークショップ、講演 4 h	教職大学院の特色や道徳教育を幅広く考えて、3つの視点からワークショップを用意した。 ・道徳教育の改善充実に向けて ・主体的・協働的な学びを促す授業づくり ・発達障害等のある子どもの支援 講演「豊かな心を育む学校づくり」	使用教材：配布資料、テキストはパワーポイント資料 進め方においては、まず、「はじめまして交流」として参加者相互の出会いのあいさつとなる場を設けてその後、ワークショップを3会場に分かれて実施。 ワークショップの担当を大学教員と県教育センター指導主事が協働で行った。 者の自己紹介や参加者の勤務校での課題や学びたいことを一言ずつ紹介する等、質問しやすい雰囲気づくりに配慮した。 その後、「教科化までの経緯について」と「道徳科のポイントと大切にしたいこと」を講義形式で実施した。 その後、質疑の時間や各学校の個別相談に応じる時間を設けた。
道徳ラボ研修会・第2回公開講演会 提案、シンポジウム、講演 4 h	提案「学校現場からの取り組みの紹介や課題について」 シンポジウム「学校現場からの提言及び実施上の課題に応える」 講演「地域に根差し世界に飛び立つ子どもたちを育てよう — 「特別の教科 道徳」を要として—」	使用教材：配布資料、テキストはパワーポイント資料 進め方においては、まず学校現場の管理職や教員から提案を受けて、シンポジウムでは、それに応えるという形式とした。その後、かがわ道徳ラボのまとめとなる講演を位置づけた。提案・シンポジウムのコーディネータを県教育センター指導主事と教職大学院担当教員が協働で行った。

○実施上の留意事項

研修への参加しやすさを考慮して、8月も12月も土曜日の午後に位置づけた。また、院生や学校現場の教員だけでなく、OBや教育関係者、他の教職大学院の方も参加できるように案内状を配布したり、ホームページに公開し、できるだけ幅広く参加できるように配慮した。また、講師として道徳教育に堪能な外部講師を依頼した。その結果、8月は119名、12月は120名と参加者を得て、有意義な研修の場を提供できたと考える。

○研修の評価方法、評価結果

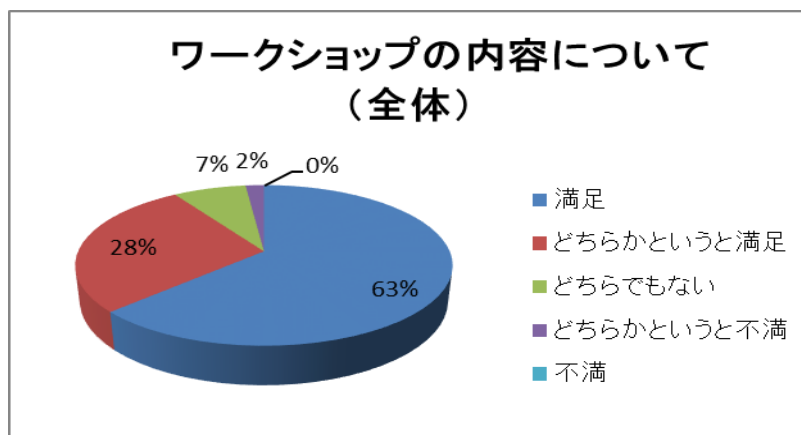
①教職実践研究交流会・第1回公開講演会

教職実践研究交流会・第1回公開講演会では、119名の参加者中、58名から回答を得た。58名のワークショップ参加先は、道徳教育20名、主体的・協働的な学びを促す授業づくり20名、発達障害等のある子どもの支援14名であった。次にその結果を示す。

1. ワークショップの内容について
(全体)

満足	34
どちらかという満足	15
どちらでもない	4
どちらかという不満	1
不満	0

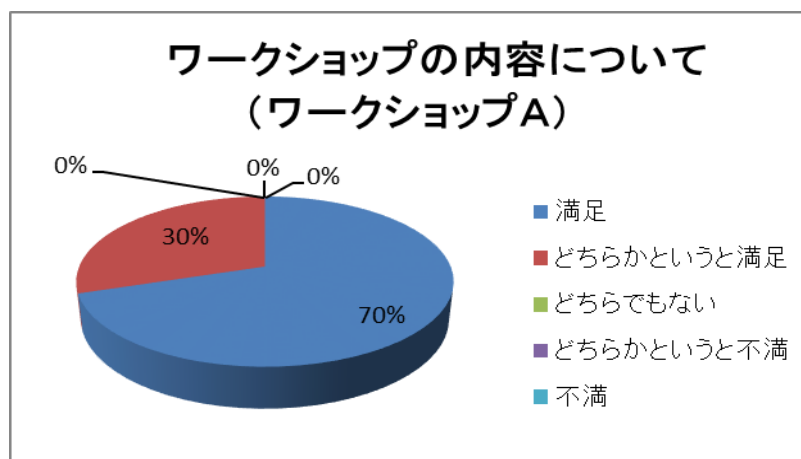
(人)



2. ワークショップの内容について
(道徳教育 ワークショップA)

満足	14
どちらかという満足	6
どちらでもない	0
どちらかという不満	0
不満	0

(人)



《満足の理由》

- 道徳の授業づくりについて実践的に考えられ、学ぶことができた。道徳の指導について、今後も考えていきたい。
- ワークショップでは、最新の資料を準備していただき、大変学ぶことが多かったです。また、参加者の悩みをもとにワークショップを展開していただき、有意義に参加できました。これまで不安だったことが少し解決できました。
- 市、特に中学校ではなかなか教科化に向けて何をすればいいのか、という話題が出ないので、お話が聞けてよかったです。

《どちらかという満足の理由》

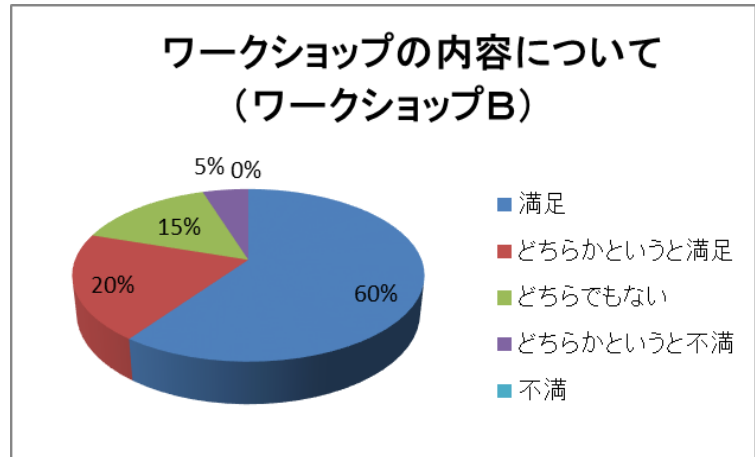
- 実習にむけて道徳教育の重要性を再確認することができました。指導があつての評価があるということで改めて指導の大切さを学ぶことができました。

アクティブ・ラーニングの方にも参加したかったのですが、時間がかぶっていて参加できなかったのが残念でした。

3. ワークショップの内容について (授業づくりワークショップB)

満足	12
どちらかという満足	4
どちらでもない	3
どちらかという不満	1
不満	0

(人)



《満足の理由》

- ALの論理、ねらいとして示されていた点を、体験を通して実感できた。
- ALの最新事情と新しい学習指導要領でのALの方向性が理解できた。また教職大学院の院生の先生方の実践を見せて頂き勉強になりました。具体的であった。
- 実践内容もあり、分かりやすかった。基礎・基本をおさえていただき、私たちもワークショップできてよかった。
- アクティブ・ラーニングを体験から理解できたのがよかった。

《どちらでもない》

- 自らの実践を越えるものがなかった。

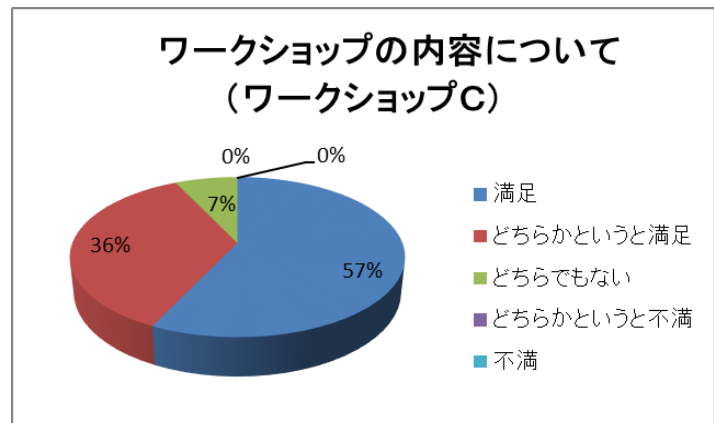
《どちらかという不満》

- 学校生活の中で、具体的場がイメージしにくい。

4. ワークショップの内容について (発達障害等のある子どもへの支援 ワークショップC)

満足	8
どちらかという満足	5
どちらでもない	1
どちらかという不満	0
不満	0

(人)



《満足の原因》

- 個別であったためいろいろなことを聞くことができた。
- 他の教諭方の実際の体験、経験から出た話について詳しく知ることができました。
- グループ毎に自由討論という形であったため、現場の声を知ることができ、参考になった。

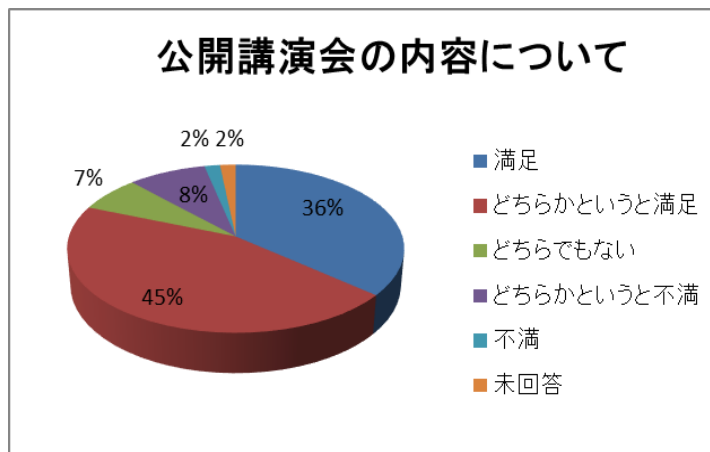
《どちらかという満足の原因》

- ワークショップのディスカッションが充実していた。

5. 公開講演会の内容について

満足	21
どちらかという満足	26
どちらでもない	4
どちらかという不満	5
不満	1
未回答	1

(人)



《満足の原因》

- 道徳化に向けて大切なことを話してくれてよかった。若手の先生にも聞いてもらいたい。
- とてもよくわかる内容でした。教科として何をおさえておくべきなのか、知れたと思う。
- 講師の先生の学校づくりの経験談を道徳の教科化に伴う解釈から、道徳は学校を変えるんだという確信が得られた。

参加した院生の声 「かがわ道徳ラボ」での学び 香川大学教職大学院 授業力コース
 教育委員会や学校教育関係者など、様々な方々との出会いがあり、情報交換や意見交流をする
 良い機会となった。授業づくりにおいて、参加者と一緒に一つの読み物教材を分析し、課題や実
 際に取り組んでいる事例紹介など大変参考になった。田邊先生の講話では、目指す学校に向かっ
 て学校長のリーダーシップのもと学校全体で取り組むことが大事だと思った。子どもにとって充
 実した道徳科となるよう、教材の吟味など、授業力を高めていきたい。国の動向や教科化までに
 準備し取り組むべきことを教えていただき、道徳科の実質化を図るために何をしておくべきかを
 具体的に考えるようになってきた。指導体制づくりや校内研修の工夫などを実践していきたい。

ワークショップでは、県教育センター主任指導主事と各担当大学教員が内容の構築から運営に至
 るまで連携を図りながら実施できた。道徳教育を幅広く捉えて、道徳教育や道徳の授業づくりを核
 に、質の高い授業づくりをめざして「主体的・協働的な学びを促すアクティブ・ラーニング」や「発
 達障害等のある子どもの支援」に関しても、両機関の各々のよさや強みを生かして、参加者のニー
 ズに合った内容を提供するとともに研修の場を提供することができた。このような研修を形成して
 いく過程を通じて、互いの理解や共通認識を深めることができた。講演会では、「豊かな心を育む
 学校づくり」と題して、教科化へのポイントだけでなく学校教育全体で取り組む道徳教育の重要性
 を再確認できた。音楽を活用した終末の在り方等、感動を呼ぶ内容であった。ただ、講演内容が学
 部生や大学院の学部卒学生には、一部難しい内容であったかもしれない。

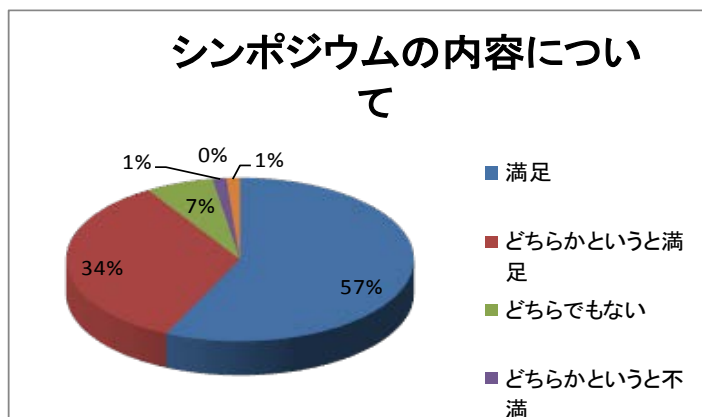
道徳ラボ研修会・第2回公開講演会

道徳ラボ研修会・第2回公開講演会では、小・中・高等学校の教員、県内教育関係者、教育関係機関の関係者、本学教員だけでなく、東京、岡山や四国内と県外からの参加者が15名で、合計120名の参加となり会場満席状態となり、道徳教育への関心の高さを実感した。120名の参加者中、58名から回答を得た。

1. シンポジウムの内容について

満足	47
どちらかという満足	27
どちらでもない	5
どちらかという不満	1
不満	0
その他	1

(人)



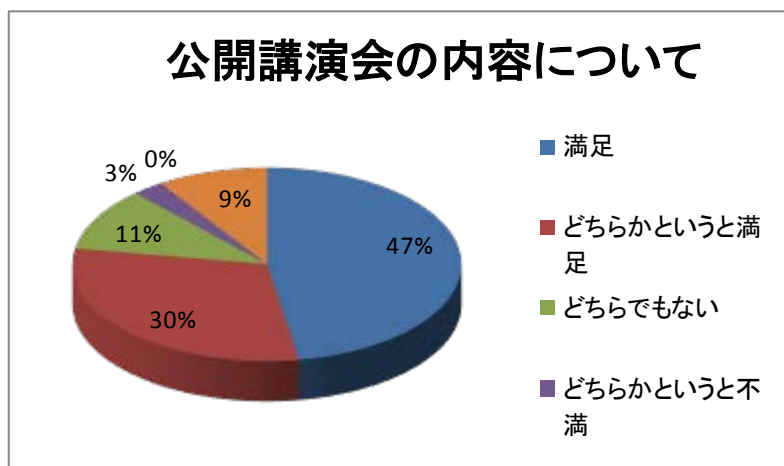
《満足の理由》

- 3人のお話がとても分かりやすくからみ合っていた。
- シンポジウムでたくさんの先生方から詳しく伺えた。
- 3名の先生方、それぞれの視点から大変参考になる示唆をいただいた。特に柴原先生のお話を楽しみにしていた。
- 具体的であり理論的であった。濃く熱い内容。
- 各観点から専門的な話をいただき、今後の道徳教育実践は向けてよく理解できた。
- 道徳科の評価の考え方や、別葉の作成の必要性に興味深く聞くことができた。
- 3名の先生方のそれぞれに熱い「語り」が印象に残った。
- 全体計画と別葉、授業づくりのポイント、評価について教科化へむけて知っておかなければならない内容ばかりで勉強になった。大変すばらしい先生方のお話を聴けてよかった。
- 現場で課題になっていること3点について詳しく解説があり分かりやすかった。

2. 公開講演会の内容について

満足	36
どちらかという満足	23
どちらでもない	8
どちらかという不満	2
不満	0
未回答	7

(人)



《満足の理由》

- お話の内容の中でもとくに「評価」の話が良く分った。
- 道德教育の要「特別教科道德」の考え方が良く分かった。夢、希望のある道德につなげることの大切さを感じた。総括としてよかった。元気になった。
- 今回、その時々話題となっていることについてお話いただけるので勉強になった。
- 今までの香川の実践を評価付けていただきながら今後の方向性をしめしてもらった。
- シンポジウムの先生方3人とは違う視点で話していただき道德は指導要領の目標を大事にするけど自分の考える道德はこうだというものを明確にすることの大切さを学んだ。

時間が足りない程、熱心な内容が交わされ、アンケートからもっと時間があればという声が寄せられた。講演会では、丁寧に分かりやすく、聴衆を魅了する内容であった。特に、教科化に向けて道德教育の5つの課題をあげながらポイントを解説されて好評であった。情報モラルに関する内容や評価に関わる点は、参加者の関心も高いことから事例を示しながら整理し、講演していただいた。参加者のアンケートからも、本企画に対して教科化に向けた学校現場の課題に応える内容で有り、有意義な研修の場となったと賞賛の声を多数いただいた

○研修実施上の課題

土曜日の午後で参加者が100名を超えて盛会であったが、8月は会場が大学であり、学内の駐車場が十分でないために公共交通機関の利用を呼びかけた。12月は県教育センターを会場として十分な駐車スペースがあり、参加者からも便利であるとの声をいただいた。また、参加者のアンケートにもう少し時間がほしいとの意見もあり、内容と時間配分についても課題である。

3 かがわ道德ラボ指導者研修会

○研修の背景やねらい

県内の市町教育委員会も含めて、県下全域の指導主事が揃って研修をする場で、道德担当でない指導主事も道德の教科化について基本的な理解を深めてもらいたいと願い企画した。道德担当でなくても、学校訪問や様々な研修の場で道德の教科化に関する質問や指導助言をする場がある。そのような点からも、大学と行政の各機関が連携を図りながら県下全域で教科化に向けた準備や支援が適切にできるためにも指導者の研修会として、初の試みであるが「かがわ道德ラボ指導者研修会」を実施することとした。

事業内容	日時	開催場所	参加人数	対象
かがわ道德ラボ指導者研修会	平成28年12月12日(月) 9:30~10:55	香川県教育センター	102名	県内指導主事

○各研修項目の配置の考え方

限られた時間であったが、基本的事項の講義を行い、その後グループ協議の時間を取り、グルー

プで出された主な質問に教職大学院の担当教員が可能な範囲で答えていった。

○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方

事業内容 実施形態 時間数	各研修項目の内容	使用教材、進め方
かがわ道徳ラ ボ指導者研修 会 講義、 グループ協議、 質疑応答	講話「道徳の教科化に 向けて」 グループ協議「道徳の 教科化に向けた課題 について」 質疑応答	使用教材：配布資料、テキストはパワーポイント資料 進め方においては、進行は義務教育課指導主事が行い、 大学の担当教員よりミニ講義を行った。 その後のグループ協議「道徳の教科化に向けた課題に ついて」では、4名程度のグループを作り協議した。そ の後、いくつかのグループから質問を出して、その主 なものに大学教員が説明を加えて返答していった。 質疑応答では、「評価」、「質的転換」、「問題解決 的な学習」、「検定教科書と教材」についての話題が 主に話し合われた。

○実施上の留意事項

何よりも日程調整が難しいが、3名の教職大学院道徳担当者が可能な時間を調整した。
会場も県教育センターの大会議室で講義もグループ協議もできたことがよかった。

○研修の評価方法、評価結果

担当の指導主事からも好評で参考になったとの評価をいただいた。これも義務教育課や県教育セ
ンターの指導主事との連携が繰り返されてきたことで実現したと考える。

○研修実施上の課題

今後は、教科書採択の時期もあり、日程調整がより難しいことも考えられる。また、多くの指導
主事の道徳教育に関するニーズを事前に把握できればさらによい。

4 それ以外の取組

① DVDによる道徳研修教材作成

DVD研修教材は、本道徳ラボに参加できなかった先生方や学校での校内研修、個人研修等で
活用していただき、教科化に向けたポイントの理解や疑問や悩みに応えられる内容として企画し
た。県内の学校への配布用と講演やシンポジウムを記録した貸出用を作成した。

趣旨：道徳の教科化に向けて校内研修等で、教科化に関する経緯や趣旨の理解を深めるととも
に趣旨を踏まえた授業づくり、年間計画等の見直しを進める際に参考となる内容にして、学
校現場を支援する教材とする。

利用対象：小・中学校教員、道徳推進教師（計画の見直し）、若年教員（授業づくり）

配布用：約 55 分 七條、植田、齋藤（県センター：伊賀主任指導主事、小倉主任指導主事）

貸出用：公開講座Ⅰ、教職実践研究交流会、道徳ラボ研修会

② 相談や質問への対応と支援～道徳教育何でも相談ネット～

県内外から、今年度 4 月以降に道徳教育の教科化や学校での道徳の授業づくり等に関する相談や質問等が約 30 件程あった。方法として、電話、大学への直接訪問、電子メールでのやりとり、公開講座の個別質問時間の活用、道徳に関する研修会の休憩や終了後、等多様である。内容としては、評価に関わること、今後の教科書や教材について、全体計画・年間計画の修正等の手順やポイント、道徳教育に関する図書の紹介や問合せ、道徳科の趣旨を踏まえた授業づくり、校内研修の工夫や教員への共通理解について、等が主なものである。道徳ラボに参加できた方は、研修会で得た資料を活用して校内研修の場を設定するなど、何をすべきかの方向性や不安軽減に役立てたようであるが、

なかには道徳教育推進教師であるが、都合がつかず参加できなかったために問合せや資料がほしいと連絡をいただいた。そのような方にも DVD 研修教材を生かせると考えている。今年度中に配布できるように予定している。以下にメールで寄せられた質問や相談の一部を紹介する。

A 小学校道徳教育推進教師からメールでの質問

・・・最後に一つお尋ねがあります。研修会に出席したり、自分で実践をしたりする中で、道徳的価値について、教師側が具体的に掴んでおくことが非常に重要であると感じています。しかし、指導要領の解説に記述されていることだけでは私にはなかなか具体的に価値をつかむことが難しいです。道徳的諸価値の勉強になるような書籍や資料はないでしょうか？あれば教えていただくと幸いです。

返信後のメール：先生から紹介していただいた「道徳教育、画餅からの脱却」大変勉強になります。有り難うございます。更に読んでおいた方が良い本があれば紹介していただくと有り難いです。

B 小学校道徳教育推進教師からメールでの質問

いつも大変お世話になっております。寒くなってまいりましたがお元気でしょうか？・・・・今日校内研修で「相互理解・寛容」が「思いやり・感謝」の授業になってしまうことについて話し合い、中心発問を考えましたが、暗礁に乗り上げて終わりました・・・。しかし、こういう研修を積み重ねることが学びになると思っています。時間がありましたらご助言をお願いします。

C 中学校道徳教育推進教師からメールでの質問

7 月の研修会では大変お世話になりました。先日、質問等をどうぞということでしたので早速相談をさせていただきたくメールで失礼します。

実は、「キミばあちゃんの椿」で、私が担任している中学 3 年生の、卒業を前にした今こそ実践したいと思っており、少し相談させて頂きたくメールさせて頂きました。「私たちの道徳」では、3-（1）で扱うようになっておりますが、自分は 3-（3）で扱いたいと思っております。・

……もしこの考えでできれば、中心発問としては「生きることは一と筋がよし寒椿」の「生き切る椿」の意味に焦点を当て、……いかがでしょうか。……独りよがりと思いを述べさせて頂いてしまいました。どうかご指導頂けましたら幸いに存じます。

D 中学校教頭先生より

本校の先進校視察のご推薦をいただいた〇〇市立〇〇学校研究発表会と〇〇市立〇中学校〇〇先生の授業を参観することとしました。ご紹介いただき有り難うございました。

さて、〇〇の道徳教材について、教員に指導してもらいたく、少し調べたりしているのですが名案が見つからず先生にお頼りしたくメール送信しています。……「新ふるさとの心」もありますが、地域の方に来校いただきお話と教材をどのようにつないだらよいか見通しが見つからないことなど、いろいろ一人で悩んでいます。よろしかったらお知恵を授けていただければ幸いです。

* 上記以外にも、本事業の推進に関わり下記のような点についても実施できた。

○ 4月の教員研修センターで実施された研修会に大学教員と県教育センター教員がともに参加することができ、より強固な連携の礎とすることができた。

○ 6月に県教育センターが実施した「道徳教育指導力向上研修」においても、道徳ラボ担当の県教育センター主任指導主事、道徳ラボ担当の大学教員とで内容や当日の演習に用いる手順図を協議し作成することができた。

○ 香川県教育委員会の道徳教育地域支援委託事業における研究推進校において、道徳を実践研究している教職大学院生が大学教員とともに授業参観を3校において実施できた。

○ 香川県小学校教育研究会道徳部会夏季研修会や支部研修会（高松支部、さぬき・東かがわ支部）にも教職大学院生が参加し、実践的な学びの場とすることができた。

○ 12月実施の「平成28年度道徳ラボ研修会・第2回公開講演会」に本学教職大学院生の多くが参加でき、教職大学院の授業科目「道徳教育実践研究」で、「かがわ道徳ラボ」から考えるとして、議論された内容を演習的に取り上げて質疑応答やディスカッションを深めることができた。

○ 本事業に全て参加した本学教職大学院生が12月に日本教職大学院協会ポスターセッションでの発表、かがわの教育づくりでの展示コーナーによる取組紹介等で説明や広報を実施できた。

III 連携による研修についての考察

教職大学院、教育委員会・県教育センター、学校現場等で実施される道徳教育に関する学びの場に互いの研修対象者を参加可能にすることで、理論と実践に関する内容の相互補完を図ろうと取り組んできた。教職大学院の教員が各研修担当者と連携して、学びの場をつなげるコーディネート役を果たし、各々のよさを効率的に共有できる場—かがわ道徳教育ラボ—により、学びのネットワークの拡張を図ろうと推進してきた。参加者のアンケートの声からも道徳の教科化に向けて、学校現場の道徳教育に対する意識や学びの場の必要感を強く感じた。また、教科化への理解を深めたり、各校での実践へのヒントを得ることができたと思われる。だが、何より教科化への基本的な理解が

まだまだ不十分であること、教科化への対応等の危機感を感じていない教員も多くいること、等も多く感じられた。

特に、参加した道徳教育推進教師からは、「校内で道徳教育担当でない教員や管理職の理解と支援を得るためにはどのようにすればよいのか」などが大きな課題であるといった声が複数寄せられた。これらの声に応える観点からも「道徳教育教員研修DVD教材」を活用してほしいと考える。また、次年度への改善の課題とするとともに、本事業に関して広く普及啓発を図っていきたい。

(1) 特に留意した点

① 開催時期

かがわ道徳ラボ公開講座で、その開催時期である。県教育委員会や県教育センターから、他の研修日程等の情報を得ながら開催日の決定を思案した。基本的に教職大学院の授業が平日であるために、夏休みの半日を開催にあてたが、学校現場の先生方が他の研修と重ならないのか、道徳関係の先生方の研修が設定されていないのか、と検討を重ねながら実施することができた。

② 開催場所

公開講座は、教職大学院の院生も参加することから大学で実施したが、12月予定の道徳ラボ研修会は、土曜日ではあるが県教育センターを開催場所として、実施した。土曜日に大学外の開催場所を設定することができたのは、互いの連携による学びの場の創出に大きな成果である。特に、参加者が県教育センターの駐車場を利用することができ、研修への参加意欲の後押しともなった。

③ 役割分担と共通理解

6月に県教育センターが実施した「道徳教育指導力向上研修」や8月の平成28年度教職実践研究交流会では、研修内容を分担や協働して、参加者により分かりやすい内容とすることができたと考える。また、6月の研修では、大学の担当教員が現在の最新情報や他県の情報等も含めて、今後の教科化に向けて何をすべきか等を確認した上で、後半は県教育センターの担当指導主事が主となり具体的な演習を展開した。その、演習で用いた手順等も事前の協議会で話し合うなかで考え出されたものである。その手順表を8月のワークショップでも生かすことができた。8月の研修においては、県教育センター主任指導主事と各担当大学教員が内容に関する事前の打ち合わせや構築の段階から運営に至るまで何度も打ち合わせや連携を図りながら実施できたことである。

(2) 企画、実施、に当たっての工夫・留意点

① 互いの道徳教育に関する内容の理解と情報交換

大学の道徳担当教員が、県教育委員会や県教育センターで実施している道徳教育の研修内容を理解すること。また、県教育委員会や県教育センターの道徳担当指導主事に大学の道徳の授業科目内容や講演会等の内容を周知し理解を図ること。

② 学校現場の状況の把握と内容の構築

研修プログラムを協働して構築するよさには、大学教員が把握しにくい学校現場のニーズや現状を具体的に県教育委員会や県教育センターの担当指導主事から教えていただき、研修内容や演習の方法等に生かせることが一部ではあるが実現できたことがある。さらに、12月の道徳ラボ指導者研修会において、指導主事の方から具体的な質問等を聞くことができ、それを受けて教員養成や教職大学院の立場で何ができるのか、養成と研修の一体化を推進する一助としたいと考える。

③ 目的を共有し、できることからの実践

特に難しいことやかなり高度なことをするのではなく、少し工夫すればできることを教職大学院と県教育委員会や県教育センターが協働して、まず実践しようとするものである。そして、プログラムを提案し実施するためにも、互いの担当の人と人が目的を共有することである。

④ 参加者の交流の場

意図的に「はじめまして交流」や演習で互いに交流する場を位置付けたので、教職大学院生や参加した教員に加えて、大学関係者、教育委員会、県教育センター関係者等が多様に交流する学びの場が形成され、その関係性が副次的な効果にも繋がったと考える。

その他、以下のような点も上げたいが、項目のみとする。

- DVD 教材作成による校内研修での活用
- 道徳関係の図書関係の整備
- 学校現場からの相談や質問への対応～道徳教育何でも相談ネット～
(連携を推進・維持するための要点、連携により得られる利点、今後の課題等)

IV その他

[キーワード]教科化、道徳科、県教育センターとの協働、道徳DVD研修教材、かがわ道徳ラボ
[人数規模] D (補足事項 公開講座は20名程度、講演会とワークショップやシンポジウム
を組み合わせた土曜日の午後開催の研修会は100名超)
[研修日数(回数)] C (補足事項 公開講座2日、講演会等2日、指導者研修会1日)

【問い合わせ先】

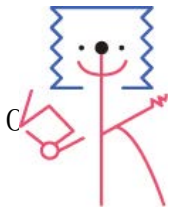
国立大学法人香川大学 大学院教育学研究科高度教職実践専攻
〒760-8522 香川県高松市幸町1-1
教職大学院 准教授 植田和也 学務係(教職大学院担当) 平岡桂子
TEL 087-832-1404

香川県教育センター
〒761-8031 香川県高松市郷東町587-1
教職員研修課 主任指導主事 伊賀由美子
TEL 087-813-0955

資料編

平成28年度 教員の資質向上のための研修プログラム開発事業
「道徳教育の学びの場をつなぐ相互補完研修プログラムの開発」
かがわ道徳ラボ公開講座Ⅰ 実施要項

日程と内容 平成28年7月25日(月) 13:00 ~ 15:30
場 所 教育学部431教室



13:00～

開会挨拶 有馬専攻長

日程説明・資料の確認 植田

担当者自己紹介 七條 松井 齋藤 植田 山本 松下

参加者の自己紹介と勤務校での課題や学びたいことを一言ずつ

講義「教科化までの経緯について」 担当：植田

講義「道徳科のポイントと大切にしたいこと」 担当：七條

質 疑

次回公開講座Ⅱの連絡等

15:00～ 個別相談 院生資料室で相談

配付資料：七條講義資料 植田講義資料 教職大学院パンフ

平成28年度 教員の資質向上のための研修プログラム開発事業
「道徳教育の学びの場をつなぐ相互補完研修プログラムの開発」
かがわ道徳ラボ公開講座Ⅱ 実施要項



日程と内容 平成28年8月4日(木) 13:00 ~ 16:30
場 所 教育学部431教室

13:00~

講義・演習 テーマ「道徳科の趣旨を踏まえた授業改善」

挨拶・日程説明・資料の確認 植田

- ・講義「学習指導要領より 学習指導の工夫について」担当：植田
- ・演習「私たちの道徳」より 資料分析から発問を考えよう
教室の後ろで 小と中のグループに分かれて
小「うばわれた自由」 担当：山本・植田
中「帰郷」 担当：齋藤・松井
- ・ミニ講義「発問、交流活動について」 植田
- ・質 疑

14:15~ 休憩

14:25~

- 講義「道徳科の趣旨を踏まえた学校づくり」 担当：植田 齋藤 松井
- ・学習指導要領より～道徳科の趣旨を踏まえた特色ある学校づくり～ 齋藤
 - ・構想例の紹介 植田・院生
 - ・学校全体で取り組む道徳教育 植田
 - ・道徳教育を核とした学校づくりのポイント(学校評価) 松井
 - ・質 疑

感想アンケート記入し 閉 会

16:00 各校の道徳教育に関する個別相談 院生資料室で相談

配付資料：各担当配付資料、ワークシート、 教職大学院パンフ

平成28年度 教職実践研究交流会 実施要項
平成28年度 教員の資質向上のための研修プログラム開発事業
「道德教育の学びの場をつなぐ相互補完研修プログラムの開発
～「かがわ道德ラボ」を核として～
テーマ「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携を基盤に」

香川大学（かがわ道德ラボ、教職大学院、教職支援開発センター）、香川県教育センター、
香川大学教育学部松楠会 共催事業

- 1 日時 平成28年8月6日(土) 13:00～17:00
- 2 場所 香川大学オリーブ・スクエア
- 3 内容 司会〔植田〕
 - (1) 開会あいさつ 13:00～13:15 香川県教育センター所長、松楠会会長
 - (2) はじめまして交流 13:15～13:30 進行〔宮前〕
 - (3) ワークショップ 13:30～15:00
 - ①道德教育に関すること 【多目的ホール】
 - ②授業づくり、アクティブ・ラーニングに関すること【学習ラウンジ】
 - ③発達障害等への支援に関する相談【教員交流ラウンジ】
 - (4) 講演会 15:15～16:45 講師紹介等〔七條〕
演題「豊かな心を育む学校づくり」
講師 前高知大学教育学部附属教育実践総合センター准教授 田邊 重任 氏
 - (5) 閉会あいさつ 16:45～ 専攻長
- 5 備考 会場に教職大学院広報ブース設置

平成28年度 道徳ラボ研修会・第2回公開講演会 実施要項

平成28年度 教員の資質向上のための研修プログラム開発事業
「道徳教育の学びの場をつなぐ相互補完研修プログラムの開発
～「かがわ道徳ラボ」を核として～

- 1 日 時 平成28年12月10日(土) 13:00～17:00
- 2 場 所 香川県教育センター 5階 大会議室
- 3 主 催 香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻(教職大学院)
香川県教育センター
香川大学教育学部附属教職支援開発センター
- 3 内 容 全体進行：齋藤嘉則(香川大)

13:00～13:10 開会挨拶 有馬道久(香川大学教職大学院専攻長)

13:10～13:45 (1) 学校現場からの取り組みの紹介や課題について
司会：植田和也(香川大)
宮井 優寿(高松市立川岡小学校長)
秦 照幸(高松市立屋島西小学校長)
白河原 力(東かがわ市立三本松小学校長)
岡 昌代(高松市立協和中学校 指導教諭)

13:50～15:20 (2) シンポジウム：学校現場からの提言及び実施上の課題に応える
コーディネータ：
小倉勇介(香川県教育センター)、植田和也(香川大学)
パネリスト：
堀田 竜次((独)教員研修センター東京事務所 主任指導主事)
柴原 弘志(京都産業大学教授、元文部科学省教科調査官)
毛内 嘉威(秋田公立美術大学教授、小学校学習指導要領解説協力者)

15:30～16:50 (3) 講演
演題：地域に根差し世界に飛び立つ子どもたちを育てよう
－「特別の教科 道徳」を要として－

講師紹介：七條正典(香川大)
講師：押谷 由夫(昭和女子大学教授、元文部科学省教科調査官)

16:50～17:00 閉会
講師への御礼：野崎武司(香川大)
閉会挨拶：藤井浩史(香川県教育センター所長)

かがわ道徳ラボ指導者研修会 実施要項

(第8回指導主事会において)

テーマ「道徳の教科化に向けて」

香川県教育委員会事務局義務教育課と香川大学教職大学院の連携・協働により、かがわ道徳ラボ指導者研修会を下記の通り実施する。

日時 平成28年12月12日 9:30～10:55

場所 香川県教育センター

対象 香川県内の県、市町教委等の指導主事

講師 香川大学教職大学院 教授 七條正典、准教授 齋藤嘉則、准教授 植田和也

○ 講話及び協議について 9:30～10:55
・プレゼン準備及び講師紹介…5分

① 講話「道徳の教科化に向けて」…40分 (9:35～10:15)
講話① 香川大学教職大学院 七條 正典…25分

講話② 香川大学教職大学院 植田 和也…15分

② グループ協議…20分〔義務教育課で司会〕 (10:15～10:35)
「道徳の教科化に向けた課題について」

七條・植田の講話を受け、課題に思ったこと等の質問をグループでまとめる。
(例)学校教育全体で行う道徳の評価と道徳科の評価の関係はどのようになるのか。

③ 意見交換…20分〔植田先生、齋藤先生に質問〕 (10:35～10:55)

回答者 香川大学教職大学院 齋藤 嘉則
香川大学教職大学院 植田 和也

・グループ協議で出た質問を各グループから1つ出し(重複は避けて)香川大学の先生に答えてもらう。司会者が質問する。

かがわ道徳ラボ公開講座 2016.7.25(月)



【専攻長より開会の挨拶】



【参加者への案内掲示】



【資料とPPTで分かりやすく】



【分かりやすい教材・資料を】



【担当者が協働で】



【具体物を活用して分かりやすく】

かがわ道徳ラボ公開講座 2016.8.4(木)



【様々な資料や情報を提供できるように】



【演習も小・中分かれて TTで】



【具体的な指導や発問づくり】



【学校における道徳教育の視点からも】



【楽しく分かりやすい講座に】



【互いに交流できる場にも】

平成28年度 教職実践研究交流会 2016年8月6日(土)



【はじめまして交流：道徳への悩みも共有】



【指導主事と協働のワークショップ】



香川大学



香川大学



【講演 豊かな心を育む学校づくり】

写真資料

平成28年度 道徳ラボ研修会・第2回公開講演

2016年12月10日(土)



【提案:学校現場からの取り組みの紹介や課題について】 【シボゾウム:学校現場からの提言及び実施上の課題に答える】



【講演 地域に根差し世界に飛び立つ子どもたちを育てよう
—「特別の教科 道徳」を要として—】

事業実施者・協力者一覧

氏名	所属・職名
事業実施者	
毛利 猛	香川大学教育学部 教授・学部長
有馬 道久	香川大学教職大学院 教授・専攻長
七條 正典	香川大学教職大学院 教授・教職支援開発センター長
植田 和也	香川大学教職大学院 准教授
齋藤 嘉則	香川大学教職大学院 准教授
山本木ノ実	香川大学教職大学院 准教授
松下 幸司	香川大学教育学部 准教授
松井 保	香川大学教職大学院 特命准教授
野口 里美	香川大学教育学部事務課長補佐（総務係長）
平岡 桂子	香川大学教育学部学務係専門職員
事業連携協力者	
矢木澤 崇	香川県教育委員会事務局義務教育課長
藪内 康則	香川県教育委員会事務局義務教育課主任指導主事
藤井 浩史	香川県教育センター所長
上村 毅	香川県教育センター教職員研修課長
伊賀 由美子	香川県教育センター主任指導主事
小倉 勇介	香川県教育センター主任指導主事

【問い合わせ先】

国立大学法人 香川大学
 大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）
 〒760-8522 香川県高松市幸町1-1
 TEL 087-832-1404